第25号

葉群

HAMURE

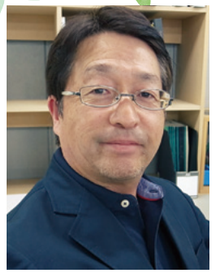
一般社団法人　群馬建築士会前橋支部女性部

葉群　第25号

表紙……画像：前橋市中央児童遊園るなばあく『木馬』
3　「眼を養い、手を練れ」……前橋支部長　須田和正
4　新たなスタートとして……萩原　香
5　特集『わたしのイチオシ！ in　Maebashi』
…　『前橋公園』長谷川浩子
『大切な風景の中の臨江閣』相場直子
『群馬大橋から』西村良子
『群馬県立図書館』萩原香
『養蚕農家』永田美代子
『職場から見る「赤城山」』樋口美香
『三夜沢の赤城神社』貝磯博子
『街中散策』小須田久子
10　葉群 24 年のあゆみ

令和２年度　女性部の活動

令和２年				
4/ 4（土）	役員会	会議	４名	前橋市市民活動支援センター
5/16（土）	『葉群 24 号』発行			
6/ 6（土）	定例会	総会資料及び葉群発送作業	４名	前橋市市民活動支援センター
8/ 1（土）	役員会	会議	４名	オンライン
12/ 5（土）	役員会	会議	４名	前橋市市民活動支援センター
令和３年				
1/ 8（金）	役員会	会議	４名	オンライン
2/ 6（土）	定例会	オンライン交流会	７名	オンライン
3/ 6（土）	定例会	研修会 『シニア片づけのススメ』 講師　おの あけみ 氏	８名	オンライン



女性部会報誌「葉群　第25号」発刊に際して

「眼を養い、手を練れ」

（一社）群馬建築士会前橋支部
支部長　須田　和正

女性部の皆様に於かれましては、日頃より本会の運営に、活発な活動を通しご協力頂きまして、感謝と御礼を申し上げます。またこの度は、記念すべき「葉群第25号」発刊ということで、あらためて敬意を表したいと思います。

25年前に想いを寄せるうちに、建築を志していた懐かしい学生時代まで遡っていました。その頃は住宅の設計に興味があり、手書きのスケッチや図面、スタディ模型など何度も造りました。「住宅設計の中には建築に大切な基本全てが含まれている」と教えられました。

その当時好きな建築家は宮脇檀さんで、その教えの中に「眼を養い、手を練れ」の言葉があります。この言葉は建物を創っていく人にとって大切な教えだと思います。優れたものを沢山見て吸収すること、それが「眼を養う」ことであり、「手を練る」は設計を考える時に頭で考え込まないで、スケッチや模型作製など手を動かし身体と心で創ることです。

まさに女性部の活動を見ているとこの言葉を思い出します。子供たちとのワークショップの「ストローハウス」や「ペーパークラフトの家づくり」など、今のIT環境では学べない活きた教材です。また五感に働きかける視察や研修も大事な役割を担っています。

新型コロナウイルス感染が依然として先行きが見えない状況が続いています。改めて普通の日常の中にある大切なものを発見することや、新しい試みを模索することなど、この経験は必ず今後の私たちの活動に役立っていくことと信じております。女性部の今後の活動に益々期待しております。

新たなスタートとして

（一社）群馬建築士会前橋支部
女性部長　萩原　香

昭和61年8月に、前橋市内在住の12名の女性建築士からなる『女性建築士の集い』が発足しました。その後、群馬建築士会前橋支部女性部となり、活動を継続する中、平成9年、会報誌『葉群』が創刊されました。毎年、女性部の活動を綴ってきた『葉群』は、この度、第25号の発行となります。これまで多くの会員の方々の手で、繋げてきた『葉群』を今年も発行出来、大変、嬉しく思っております。

令和2年度は、これまでにないコロナ禍という状況となりました。前橋支部の事業は、ほぼ中止となり、また、東日本大震災の際にも継続してきた全国女性建築士連絡協議会でさえも中止となり、業務や社会活動にも影響を及ぼす厳しい状況が現在も続いています。女性部の活動も、停滞し、年明けになり、どうにか会員交流会、研修会をオンラインで、実施することが出来ました。そんな状況で編集に取り組んだ会報誌『葉群』は、どのような内容にするか迷うばかりでした。

しかし、今回、節目となる第25号、なんとか発行したいと検討してまいりました。おかげさまで、多くの方にご協力いただき、完成に至りました。

支部長様はじめ、会員の皆様からのご協力に、改めて感謝とお礼を申し上げます。そして、これを機に、これまでの活動を振り返りつつ、新たな女性部の活動のスタートが出来ればと思っております。

今年度も引き続きご協力のほどよろしくお願いします。

活動報告

3月定例会研修会『シニア片づけのススメ』

令和2年度の開催としては、最初で最後の研修会を開催しました。3月6日土曜日、オンラインで開催されたこの研修会では、日常の片づけ、そして業務の際に活かせる片付けの知識を得ることが出来ました。講師は一昨年も講師を務めていただいた、おのあけみ氏にお願いいたしました。

片づけの必要性、片づけの効果、整理・収納・整頓・片づけの違い、片づけの順番、モノの手放し方などのお話。

具体的な方法と、ポジティブに片づけに向き合う姿勢を教えていただきました。

講師　おのあけみ氏

リモート研修会参加者

特集

わたしのイチオシ！ in Maebashi

～日々の見慣れた風景、建築を女性部の会員から、イチオシの前橋を紹介します～

前橋公園

…長谷川浩子…

長谷川さんのイチオシは、前橋公園。前橋公園内の散歩が日課となっているそうです。散歩だけでなくラジオ体操や、散歩で出会う人、散歩で会う犬など、いろいろ楽しんでいらっしゃるようです。また、前橋公園は女性部の活動とのかかわりが深い場所でもあることもお話しいただきました。

女性部では、平成14年に「こんな公園があったらいいね！私たちが提案する前橋公園」を作成しました。これは、女性部の会員たちで前橋公園内の調査を行い、利用者の目線に沿った公園内の通路、トイレ等施設などを図としてまとめたものです。さらに、それを前橋市に提案した経緯があります。県庁から続く南側の道路からも、高低差がありますが、現在は、なだらかなスロープ、そこに併設された階段は、昇降途中に水平面が設けられています。その他も案内板の設置などいたるところが改良され、利用しやすく整備された公園になっています。提案した当時のことを思い起こしながら、提案した内容が反映されている箇所など、これまでの活動も振り返りながら、教えていただきました。女性部の活動を長期にわたり牽引してきた長谷川さんとお会いし、改めて女性部の活動の意義も考えるきっかけにもなりました。（萩原　香）

大切な風景の中の臨江閣

…相場　直子…

高崎出身の私は臨江閣の周辺が苦手でした。仕事で訪れた際に一方通行に何度も翻弄されて…この土地とは気が合わないと思ったのです。それが運命のイタズラで住むことになり早20年以上。講習会やアート展、お茶会などで度々臨江閣を訪れる機会があり、そして数年前に大規模改修されました。私も改修工事開始とほぼ同時期に職場環境が変わり毎日臨江閣前の橋を渡って通勤するので、特に帰宅時には橋の上からライトアップされる臨江閣を眺めるのが日課となりました。すると今まで気にとめていなかった情報や季節の移り変わりにも気づかせてくれるのです。

「今日は満月と臨江閣」

「今日は○○の日だから○色のライトアップ」

「台風が来るから雨戸が閉まっている」

それとなく見ていた風景だったのですが毎日が楽しみで、「今日も頑張ったな」としみじみと思えるご褒美となりました。

毎日見る風景や建物は自分の年齢や精神状態によって感じ方に変化があり、自分を客観視できる大切なものです。

群馬大橋から

…西村　良子…

群馬大橋から、利根川の上流方向を眺める景色が好きです。群馬大橋と同い年で長い間、折に付け、見てきました。山々と利根川の流れもいろいろと変わり、また、季節によっても変わってきます。どういうわけか、真冬の一番寒いときが最高です。

グリーンドームができたての頃は、違和感がありました。しかし、年月とともに不思議と溶け込んでしまいました。

少し角度を変えて榛名山方向に沈む夕日も最高です。群馬大橋のライトアップもいいです。

今回は、花曇りで山々が見えず、橋の塗り替え工事のための足場が組まれていていい写真が撮れませんでした。

群馬県立図書館

…萩原　香…

群馬県民会館と、群馬県立図書館は、岡田新一氏の設計。県庁所在地である前橋には、県立の建物がたくさんあります。その建物を覆うケヤキ並木とともに私のお気に入りの風景です。さらに、群馬県立図書館1階奥の中庭に面したスペースもおすすめの空間です。

養蚕農家

…永田美代子…

旧関根家住宅（大室公園）

「県都前橋生糸（いと）の市（まち）」

私が子供の頃は、まだ養蚕や繭はとても身近にあった。

母の実家は農家で、蚕を飼っていた。家では祖母が繭を煮て糸をひいていた。

母は自分で織った銘仙を持って嫁にきたという。

白くて柔らかな蚕が桑を食べる音や繭を煮る匂いは今でも思い出すことができる。

「繭と生糸は日本一」

その後、絹産業が日本の近代を支えていたこと、前橋の繁栄は日本の繁栄であったことを知った。絹産業が衰退した現在でも、群馬県が生糸生産量は全国1位であるという。

大室公園の民家は江戸時代のものであるが、大正、昭和と養蚕農家の形も大きく力強い姿に変わっていった。総社地区などに残るその姿は日本一を誇った絹産業の証である。

職場から見る「赤城山」

…樋口　美香…

建築と自然との共生は私にとって永遠のテーマです。

萌黄色　けぶる赤城の山よ　山桜　散り急ぐ枝に
鳥の来て悲しみて啼く　吹割の滝音まさりて　美しき
ふるさとよ　美しきふるさと　春の赤城の山よ

歌劇「みづち」“美しきふるさと”より抜粋

『リモート演奏を群馬オペラ協会公式WEBサイトにて公開しています。是非ご覧ください。』

三夜沢の赤城神社

…貝磯　博子…

実家の裏が街中の神社でしたので、私の幼年期の遊び場は、神社境内でした。毎日のように社殿前の灯篭に登ったり、本殿で「かくれんぼ」したり、神主さんにいつも「罰が当たるぞ」と怒られていたのです。でも例祭には巫女舞にも参加するなど、敬うと言うより、親しい存在でした。

前橋で仕事を始め、三夜沢近くの現場を訪れた帰り、赤城神社に寄道したのです。大きな鳥居を潜ると、杉の大木が両脇にある参道、右手の手水舎奥には池があり、階段を上がると正面に拝殿、左に神楽殿があります。棟に千木と鰹木を置く切妻屋根の拝殿は端正で美しい。奥に進むと玉垣に囲まれた、苔むした石段と本殿、背面には赤城山山腹の森林。街中の神社にはない、神域の凛とした静寂は、私を感動させました。その後毎年初詣する、私の大好きな神社です。

街　中　散　策

…小須田久子…

イチオシがない!!　否、無いのではなく前橋をよく知ら『ない』のです。

県外生活20余年。幻のイチオシは、旧煥乎堂。建築に興味すらなかった子供時代の記憶でもかなり残っています。しかしながらもう無い。

跡地周辺を歩くと、懐かしい時がよみがえる。アーケード街、桜舞う広瀬川、朔太郎通り、県庁前、並木道。今の街中は静かすぎるが、歩くには心地いい。公共空間はよく手入れされ、とても穏やかな時間が流れている。季節の良い日柄、あてどなく街中散策をすることをわたしのイチオシ！としたいです。

葉群24年間のあゆみ

創刊号（平成9年発行）

第2号（平成10年発行）

第3号（平成11年発行）

第4号（平成12年発行）

第5号（平成13年発行）

第6号（平成14年発行）

第7号（平成15年発行）

第8号（平成16年発行）

第9号（平成17年発行）

第10号（平成18年発行）

第11号（平成19年発行）

第12号（平成20年発行）

第13号（平成21年発行）

第14号（平成22年発行）

第15号（平成23年発行）

第16号（平成24年発行）

第17号（平成25年発行）

第18号（平成26年発行）

第19号（平成27年発行）

第20号（平成28年発行）

第21号（平成29年発行）

第22号（平成30年発行）

第23号（令和元年発行）

第24号（令和2年発行）

春の若葉　夏の力強い緑

秋の陽を受けた透明なまでの輝き

冬の落ち葉　一本の木の中の絶妙に異なる色と葉形

絶妙な葉と葉の調和

色々な木々が集まり彩り形造る一つの山

女性建築士という私達に欠かせない　木との関わり

この会が　一人一人の個性と輝きを保ちつつ刺激を受け

ほんの少しずつでも明日が快適になるような提案を

発信していけるように……

発　行：一般社団法人　群馬建築士会前橋支部女性部
発行日：令和３年５月15日